

喀痰吸引・経管栄養・人工呼吸管理のケアを要する幼児（3歳児）の戸外活動における配慮

施設名	Sこども園（公立）					
対象クラス	0歳児	1歳児	2歳児	<input checked="" type="checkbox"/> 3歳児	4歳児	5歳児
対象クラスの子どもの人数	40名		対象クラスの保育者の人数	3名		
基礎疾患名	頚椎症、四肢麻痺、呼吸不全、気管切開術後					
医療的ケアの類別	喀痰吸引（口腔・ <input checked="" type="checkbox"/> 鼻腔内）		<input checked="" type="checkbox"/> 喀痰吸引（気管カニューレ内部）		導尿	
	経管栄養（ <input checked="" type="checkbox"/> 胃ろう・腸ろう）		経管栄養（経鼻）		インスリン注射	
	その他医行為（ <input checked="" type="checkbox"/> 人工呼吸器による呼吸管理 ）					
看護師の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤	非常勤	訪問看護の利用	その他（ ）		
看護師による保育活動へのかかわり				無（医療的ケアの手技のみ）		
				<input checked="" type="checkbox"/> （保育補助（見守りも含む）としても参加）		

【受け入れの経緯】

入所年齢	1歳
入所のきっかけ （問い合わせ主体など）	S市からの紹介 受け入れ前に施設見学と面談（自治体・こども園）

【受け入れ可能性の検討】

・保護者の思いの聞き取り

- ・母親が職場復帰を希望。ケアから少し離れ、リフレッシュできる時間を持ちたい。
- ・父親が県外での長期研修があり、不在中の子育て・ケアに不安がある。
- ・たくさんの友だちと関わり、戸外遊びも含め、様々なことを経験させてあげたい。
- ・しばらくは保護者同伴の保育を考えており、ケアについては看護師と一緒にいる中で時間をかけて園生活を進めていきたい。

・医療的ケアの内容・実施について

- ・保育内容の検討。（意見書・保護者の聞き取りを基に活動の制限・行事・園児との交流についてなど）
- ・必要物品の準備・使用方法の確認。（人工呼吸器・バギー・ケアに必要な日常生活用品等について）
- ・自宅での一日の過ごし方（医療的ケア・睡眠・排泄など）や通院状況の確認。

【受け入れに際しての確認・調整・共有事項】

- ・同年齢クラスに所属し、遊びや食事など可能な限り他児と一緒に経験させ、成長と共に進級する。
- ・保護者・自治体・園長・保育教諭・看護師が情報交換を実施し、個別の支援計画、医療的ケア計画を作成。
- ・園内研修実施（全職員で本児と保護者の状況・思いを把握／担当者による人工呼吸器操作の説明）
- ・日頃から担当医・消防と連携を図り、緊急時に備える。
- ・慣らし保育は、段階を踏んで進める。（保護者同伴⇒短時間保護者外出⇒経管栄養実施⇒同伴終了）
- ・入園にあたり、園だよりにて在園児保護者へ周知、理解を求めた。


【実際の医療的ケアの内容】

ケアの頻度	1日に 4~5回	実施者	看護師 保育者 その他
医療的ケア時の場所	保育室(3歳児クラス)	準備物 ①喀痰吸引 ②経管栄養	①吸引器・人工呼吸器・加温加湿器 ②経管栄養 (経腸栄養剤・栄養セット・シリンジ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・担任、看護師が活動内容を事前に確認し、できる限りクラスの活動に参加。 ・医療的ケアは看護師が担当し、保育の部分は担任が主に担当している。 ・喀痰吸引は、体調により実施回数も異なる。 ・言葉でのコミュニケーションがとれるため、ケアを行う際は言葉で伝え、本児も理解してから行う。 ・本児から吸引の実施を求められたら、必要により1日に数回実施。 ・経管栄養は、クラスの子どもたちの給食と同じペース・同じ時間に実施。 ・他児は、本児も一緒に給食を食べている(経管栄養)事を子どもなりに理解し、特に気にすることもなく一緒に食事をしている。 ・ケアコーナーは必要に応じて、オープンにしたりクローズにしたりしている。 	
			

緊急時の対応について

- 入所時に S 市医療的ケア児受入れガイドライン様式 7 『医療的ケア児在籍連絡票』を消防署に提出し、医療的ケアの内容・搬送希望病院等について確認。
 - 緊急時の役割分担・・・本児対応は看護師、救急連絡(保護者・担当医・消防署)等は主幹保育教諭・担任が行う。
 - 気管カニューレ抜去時の対応
 - ・呼吸及び全身状態を確認・記録
 - ・保護者、中核病院の担当医に連絡(状況に応じて消防署に連絡)
 - ・人工呼吸器を装着しているが、外した状態でも自発呼吸が可能。(4時間程度は可能)
- ※中核病院までは車で5分ほどの距離

【特に配慮を工夫した保育活動】

活動内容	雪遊び	援助者	保育者	看護師	その他
場所	園庭	準備物	人工鼻・防寒着・帽子・手袋		
		<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びは、本児の体調を見ながら実施。 ・言葉でのコミュニケーションができるため、活動内容やスケジュールを伝え、安心して参加できるようにする。 ・健康チェック後、呼吸器を外し、防寒具に着替え雪遊びの準備をする。 ・呼吸器を外しての活動は準備を含め30分程度で、雪遊びは10分程度の内容。 ・友だちと一緒に雪の上に寝そべったり、雪の滑り台でそり遊びをしたりして楽しむ。 ・普段から体温が上がりやすく保冷剤を使用しているため、冷たい雪の心地良さを楽しんでいた。 <p>※気候が穏やかな春や秋は、30分ほど戸外遊びを楽しんでいる。</p>			

活動内容	秋の汽車遠足	援助者	保育者	看護師	その他
場所	S市 A公園	準備物	バギー・移動用の自動車・吸引器・人工呼吸器		
		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道会社に本児のバギーでの参加を相談した際は、一度断られたが、実施に向け様々な提案をし、連絡を取り合うことで実施が可能となった。 ・鉄道に乗って、A公園までの遠足に参加。 ・移動はバギーを使用しているが、最寄りの駅は、ホームまで階段の上り下りがあり危険なため、階段のない次の駅から乗車。(乗車時間30分ほど) ・乗り込む際、鉄道会社の方がスロープを準備してくれたため、スムーズに乗り込むことができた。 ・初めての車窓からの眺めを満喫していた。 ・公園では、他児やスタッフと一緒に熊やウサギなどの動物を観察し、楽しい時間を過ごしていた。 ・熊は塀が高かったため、スタッフ数名がバギーを持ち上げ、本児も熊を見ることができた。 ・他児はお弁当の後に汽車で園に戻るが、本児は経管栄養のため一足早く園に戻り、実施。(看護師・保育教諭と一緒に車で30分の移動) 			

【ケア会議（園内カンファレンス等）の実施と職員間の共有】

ケア会議参加者	園の職員（全職員）
頻度	年に数回（年度初め・年度末・ケアの内容が変更された場合は必ず）
共有の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通して情報共有 ・ケアの内容によっては担当医を訪ね情報収集 ・県小児在宅支援センターを通して就学に関する情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れの際に園内研修を実施。受け入れに至った理由や園の方針、医療的ケアの内容、緊急時の対応、器具の扱い方などについて確認。 ・医療的ケア指示書の更新や出産・就労などの家庭事情の変化に伴い園内研修を実施。 ・ケアの内容が変更になる場合は、保護者や主治医に直接レクチャーを受ける。 ・就学に向けて、保護者及び県小児在宅支援センターの医師や医療的ケア児等コーディネーターと情報を共有している。 	